

## 読みの困難を抱えた子どもへの 図書館での活用

安来市立赤江小学校  
井上 賞子



### 本の世界を楽しむ体験を広げる

私たちは、読みの困難を抱えていると予想される子どもたちに、マルチメディアDAISY図書を使った読書の環境を提案することで、本の世界を楽しむ体験を広げることを研究目的としました。

### 図書室の環境設定について

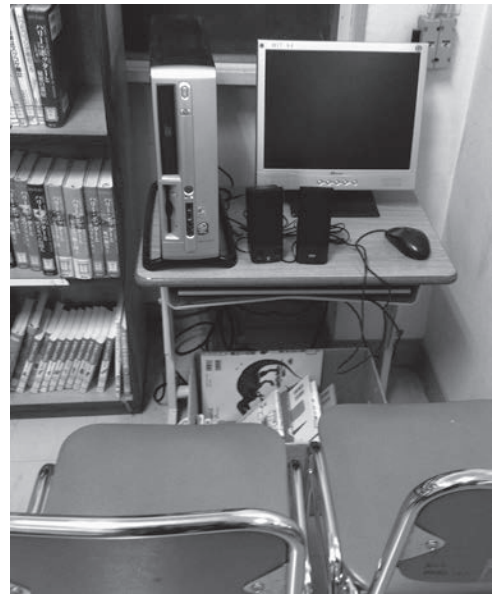
マルチメディアDAISY図書を閲覧するためのソフトAMISをインストールした3台のパソコンを準備しました。音が重ならないように、パソコンは1台ずつ独立した場所に置きました。

また、わいわい文庫に収録されているお話の書籍版を、すぐに手に取れる場所に置きました。

なお、シリーズのあるものについては、わいわい文庫に入っていない続巻

も準備し、興味のある子どもが手に取れるようにしました。

希望が多いときに複数で利用できるよう、椅子を2台準備しました。

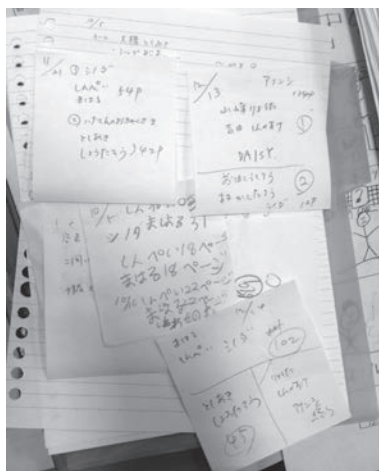


パソコンは1台ずつ独立した場所に置き、手が届く場所にDAISY図書の書籍版を置いた。

## ルールの設定について

わいわい文庫を利用するにあたって、つぎのようなルールを設定しました。

- ①図書館司書か担任がいるときに、許可を得て使う。
- ②時間内に読み終えない時は、「〇ページまで読みました」ということを司書か担任に伝える。  
⇒記録し、次回は続きから読めるようにしておく。



「〇ページまで読みました」を記録した付箋

## 実態調査の実施について

読書や図書館利用についてのアンケートを作成し、全校で実施しました。年度末に同じ調査をおこない、意識の変化をまとめていく予定です。

## 子どもたちの様子や効果について

### ▪ 対象

通常学級に在籍し、読みに困難を示す子ども（学習障害が要因として疑われるケース）

### ▪ 活用時間

図書館を利用した読書活動をする際や、図書館司書のいる休み時間

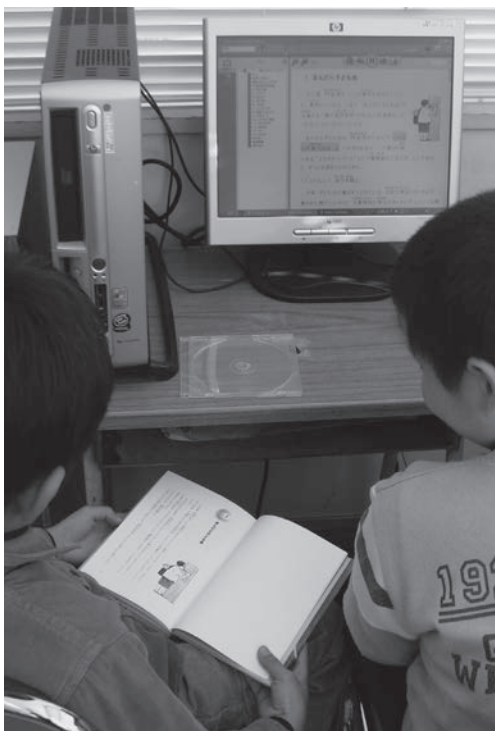
### ▪ 活用場所：図書室

### ▪ 様子や効果

読み聞かせでは熱心に聞いているのに、自分からは本を読むことのなかった子どもたちが、とても興味を示し、ハイライト表示と音声を手がかりに読み進めていく様子が見られました。

ものめずらしさで終わらず、継続して図書館に通い、続きを読むことに意欲的な様子が見られました。

マルチメディアDAISY図書で読んだ後、書籍でもう一度読んだり、気に入ったお話はまたマルチメディア



まずは自分に合ったスタイルで本と親しむ

DAISY図書で読みたがるなど、読みこんで楽しんでいました。

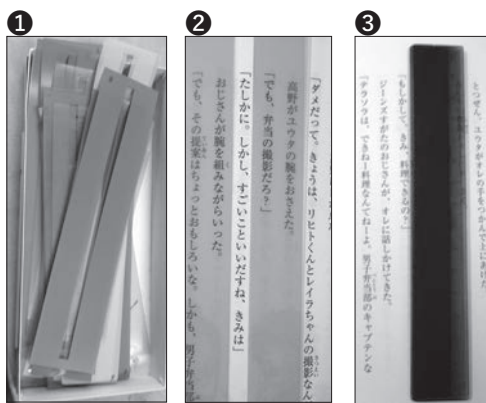
また、「もっと読みたい」「違うお話はないか」と尋ねてくる子どももいました。

## A児に見られた姿

### ①マルチメディアDAISY図書導入前の様子

A児は、ふだんから、読み飛ばしや読み間違いがとて多く、読書には強い苦手意識が見られました。

図書室に来て、本を読むことはせず、うろうろと動いていることが多いことも特徴でした。図書室に用意してあるリーディングトラッカーをすすめても、使おうとしませんでした。



- ①：図書室に常時おいてある司書さん自作のリーディングトラッカー。幅、色、透明度などさまざま。
- ②：自作のリーディングトラッカーを使っているところ。
- ③：黒定規をあてて読んでいるところ。

### ②マルチメディアDAISY図書導入後の様子

A児は、マルチメディアDAISY図書を初めて体験した時からとても強く興味を示し、休み時間も通ってきて、続

きを読みたがっていました。時には、他の子が使っていると順番を待ちきれない様子も見られました。

待っている時間には、マルチメディアDAISYで読んだ本を、書籍でも手に取り、指で追いながら読み始めました。

マルチメディアDAISY図書での読書と、指で追いながらの読書を繰り返すうちに、マルチメディアDAISYで読んだ本以外も、指で追いながら読み始めました。

2学期後半は、頻繁に図書室に通い、気に入った本を手にとって読み始めました。

A児は、「読める」という状態をとっても喜んで、楽しんでいる様子が見られました。

### ③考察

A児については、マルチメディアDAISY図書での読書体験が、「どう読んでいけばいいのか」を具体的に体感するきっかけになったのではないかと考えます。

マルチメディアDAISY図書のハイライト表示の動きを指で代替することは、A児が自分で思いついて実施していました。実はそれまでも、読みづらそうな様子が見られた際に、指で追うことやリーディングトラッカーや黒定規などの器具を使うことを提案してきていたが、いずれも定着や活用に至ってい

なかったので、最初はその様子を見て驚きました。

これは、あくまで推測ですが、マルチメディアDAISYのハイライト表示が文字でなく「言葉の塊」ごとに移動していくことが、A児にとっては大きく影響したのではないかと感じています。

それまでは、指や道具を使っても、一文字ずつを音に変換していくことに精いっぱいな様子で、読みのスピードもとても遅かったのです。

ところが、マルチメディアDAISY図書で「言葉の塊」を追って読んでいく体験をしたことで、文字より大きい単位でとらえていくことを意識化できるようになったのではないかと考えます。

現在は、指で追ってはいるものの、以前に比べて読むスピード自体も速くなり、内容についてもスムーズに理解している様子が見られます。

その結果、お話の内容を楽しむことができるようになり、読書に意欲的になってきたのではないのでしょうか。

## B児に見られた姿

### ①マルチメディアDAISY図書導入前の様子

練習してくると読めるが、初見では流暢に読むことができず、なかなか意味がとれない様子でした。

図書室では、リーディングトラックを使えば多少読みやすい様子でしたが、自分から読書に向かうことはな

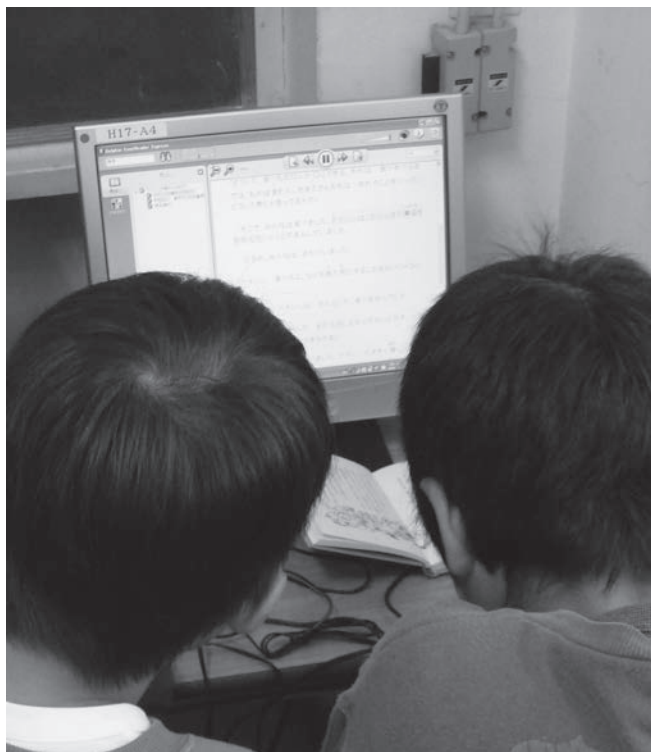
かなかありませんでした。

### ②マルチメディアDAISY図書導入後の様子

いつもマルチメディアDAISY図書を再生するパソコンの列に並んで、使いたがっていました。

わかりにくかったら繰り返して再生させるなど、工夫して読み込んでいくことで内容をしっかりと理解し、どんなお話だったかを話す姿が見られました。

マルチメディアDAISYで読んだ本については、登場人物のキャラクターがしっかりとイメージできたようで、続巻を読むことにも積極的でした。



画面の前に友だちとならんでマルチメディアDAISY図書を楽しむ



いままでなら手に取ることのなかったような、長めのお話にも挑戦する姿が見られました。

### ③考察

B児については、マルチメディアDAISY図書での読書の体験が、お話のイメージをつかむことの自己解決を手助けし、読書の広がりを支えたと考えます。

以前から初見のお話に対してはほんとうに読みにくそうな様子が見られたので、民話などについては画像をあらかじめ見せたり、個別に時間をとって読み聞かせたり、お話のあらすじを確認したりしてから学習に入るようにしていました。

大まかにでもイメージがもてると、読みやすくなる状況は実感していましたが、そのためには常に大人の介入が必要であり、B児自身はあまり意欲的な様子ではありませんでした。

マルチメディアDAISY図書を使った読書では、自分で操作し、わからなかったところは再度再生させるなど、自己解決の手だてがもてたことが、大きく意欲を高めたと感じています。

意欲的に音声やハイライト表示を手がかりに自分で確認しながら読み進めていくことで、1人では流暢に読めないためにイメージ化まで至っていなかったものが、お話の設定や登場人物

の様子や関係をつかむことができたと思われる。

その結果、同じ設定のシリーズものを楽しんで読むことができたのではないのでしょうか。



B児が読み進めたシリーズもの。  
マルチメディアDAISY図書にあったものは、一番上のみ。

シッブ船長シリーズ  
『シッブ船長と いるかのイットちゃん』  
『シッブ船長と ゆきだるまのユキちゃん』  
角野栄子／作 オームラトモコ／絵 偕成社

シノダ! シリーズ  
『魔物の森のふしぎな夜』  
『時のかなたの人魚の島』  
『キツネたちの宮へ』  
富安陽子／作 大庭賢哉／絵 偕成社

## 来年度へ向けての課題

A児のように、「どんなふうに読み進めていけばいいか」を体感させることによって、読みの状態が好転していくケースは、他にもあることが予想されます。できるだけ早い段階でそういった気づきをもつことができるように、低学年の子どもたちへの体験の機会を広げていきたいと思えます。

また、B児のように、自己解決の手だてとして活用することが有効なケースでは、マルチメディアDAISY教科書の導入を検討するなど、授業場面での活用にも広げていきたいと思えます。

今回の試みを通して、音声とハイライト表示があることで、読みにくさを抱えた子どもたちにも読書を楽しむ体験を広げていけることを実感することができました。そうした子どもたちの意欲や興味を継続させていくためにも、図書室で使えるマルチメディアDAISY図書を増やしていきたいと思えます。

マルチメディアDAISY図書での体験を、一般の書籍にも広げていけるよう、意図的な図書の整備を図りたいと考えます。

図書館司書と連携しての取り組みは、シリーズものの書籍の整備や紹介・提案、使用する際のパソコンの管理、休憩時間も含めた子どもたちの読書の状況の把握といった多くの面で有効だったので、来年度も継続していきたいと思えます。

それから、「どこまで読んだか」を子どもたち自身で確認できるような方法を考えていきたいと思えます。

DAISY図書を活用している子どもたちの姿からの気づきを、日常の生活や学習の中でも生かしていけるよう、担任や他の教諭とも情報を共有していきたいと思えます。

年度末のアンケートを集計し、1学期に実施したアンケートと比較する中で、より良い活用の可能性について探っていきたいと考えています。